

# VI 中東・アフリカ

## 中東・北アフリカ地域概観

### ■ 2009 年はプラス成長を堅持

2003年～2008年まで6年連続で5.0%超のGDP成長率を記録していた中東・北アフリカ(IMF定義)経済は、2009年は2.4%に減速した。先進国を中心に、マイナス成長に陥る国が多数あるなか、2008年秋に発生した金融危機による影響を最小限に抑え、プラス成長を維持できた背景には、原油収入を原資とした積極的な財政出動と底堅い内需が景気を牽引したことがある。また、エジプト、レバノン、シリアなどは、各国の金融機関が海外に不良債権を抱えていなかったことが、プラスに作用した。

原油価格の下落と世界規模の需要の低迷により、貿易・投資は前年比で大きく減少した。しかし、2009年末から、景気は好転の兆しをみせており、世界経済の回復に伴い、エネルギー需要が維持されれば、産油国を中心に対内・対外投資活動も再度活発化すると予想される。IMFは、2010年の中東・北アフリカの経済成長について、全体では、4.5%成長まで回復する見通しを立てている。なお、2009年11月末に発生した「ドバイ・ショック」により、ドバイ政府系企業の債務問題が長期化するなど、影響は依然尾を引いている。

非産油国で欧米を主要貿易相手とするトルコとイスラエルは、先進国の経済回復が遅れる中、内需が経済成長を牽引した。両国の経済成長率をIMFは、2010年にそれぞれ5.2%、7.4%と見込んでいる。

2010年の経常収支は、おおむね産油国は黒字、非産油国は赤字と予測され、明暗が分かれた。また、2008年上半年期まで、域内共通の経済課題に上っていたインフレは、一部の国を除き2009年に続き、2010年も1ケタ台で推移すると見込まれている。

### ■ プレゼンスを高める中国

世界主要国・地域(EU27・米国・アジア主要国(中・韓・印・日))の対中東・北アフリカの貿易をみると、2009年の対中東・北アフリカ向け輸出が4,869億3,200万ドル(前年比17.9%減)、輸入が5,643億8,900万ドル(37.5%減)と、輸入が輸出の減少を上回り、対中東・北アフリカ入超幅は前年から縮小した。各国・地域の最大輸入品目が鉱物性燃料であることから、油価下落の影響を受けた。

対中東・北アフリカ向け輸出では、全体の53.9%を占めるEU27が2,637億2,040万ドルと前年比17.7%減となっ

た。EU27は、一般機械を中心に機械類全般を輸出しており、中東・北アフリカ諸国中ではトルコが最大の輸出相手先である。2位の中国は、機械類が中心ながら、衣類などの繊維製品から鉄鋼製品や車両などの重化学工業品まで輸出品目の幅が広く、アラブ首長国連邦(以降、UAE)が最大の輸出相手先である。中国は、中東・北アフリカ地域への輸出を、1999年比で10倍以上拡大させており、プレゼンスを着実に高めている。3位の米国は、機械類や航空機などが高いシェアを占め、UAEが最大の輸出先となった。機械類と車両が主要品目の日本は36.9%減となり、韓国(12.5%減)に抜かれた。両国とも、UAEが最大の輸出先となっている。なお、復興への期待が高まるイラクへの輸出でも、日本は中国と韓国に大きく水を開けられている。2009年の日本の対イラク輸出は、3億1,500万ドルに対し、中国は18億3,700万ドル、韓国は7億8,500万ドルとなった。主要品目は、日本が乗用車、中国が電話機器、韓国がディーゼルエンジン、乗用車などとなっている。

対中東・北アフリカ輸入では、EU27が1,973億3,640万ドルと全体の約3分の1を占めた。EU27は、品目別では鉱物性生産品(構成比52.3%)に次いで紡績用繊維およびその製品(11.2%)、機械類および電気機器など(9.2%)が高い割合を占めた。輸入相手国1位は産油国でなく、輸出同様トルコとなった。アジアの主要国では、鉱物性生産品の割合がおおむね7割以上を占める貿易構造になっている。インドの輸入相手国1位はUAEで、日本、中国、韓国ではサウジアラビアが1位になった。

2009年第4四半期以降は、EU27への輸出が前年同期比で増加に転じ、輸入も鉱物性燃料が微増するなど、2010年の貿易関係は、回復基調にある。

### ■ 縮小した投資も2010年は回復基調

国連貿易開発会議(UNCTAD)によると、中東・北アフリカ地域の2009年の海外直接投資(以下、FDI。ネット、フロー)は、前年比25.2%減の874億6,200万ドル(暫定推計値)となった。同地域では、クウェート、レバノン、カタール、アルジェリアを除く各国で投資は減少した。またUNCTADは、世界的な信用収縮と国際取引の減少が影響し、トルコは輸出志向型産業が金融危機の影響を受け、クロスボーダーM&Aが急減したと指摘している。

調査会社のトムソン・ロイターによると、2009年の中東・北アフリカ地域の対内クロスボーダーM&Aは、76億

2,292 万ドルと前年比 81.6%減となった。主な受入国はトルコ(構成比 38.2%)とエジプト(28.6%)だった。業種別では、通信部門が活発で、大型案件では、2009 年 7 月の仏オレンジ・パーティシペーションズによるエジプトのエジプト・モバイル・サービスの買収(52 億 685 万ドル)などが挙げられる。中東・北アフリカ地域からの対外 M&A は、359 億 326 万ドルと前年比で半減した。受け入れ国では、ドイツが 37.0%と高い比率を占め、スペイン、米国が続いた。対ドイツ案件では、カタール投資庁によるフォルクスワーゲンのポルシェ株取得(95 億 6,948 万ドル)や UAE 投資会社アーバル・インベストメンツによるダイムラーへの出資(26 億 6,384 万ドル)などが挙げられる。

金融危機で落ち込んでいた対中東・北アフリカ M&A 案件も、2010 年第 1 四半期に 63 億 8,169 万ドルとなり、回復基調にある。

## ■ビジネスチャンスが眠る中東・北アフリカ地域

2009 年の日本の対中東・北アフリカ向け輸出は 258 億 9,490 万ドル(前年比 36.9%減)、輸入が 940 億 1,888 万ドル(44.8%減)だった。輸出相手国別では 1 位 UAE、2 位サウジアラビア、3 位オマーン、4 位イラン、5 位カタールとなっている。上位 3 カ国の顔ぶれは 4 年続けて変化はなく、輸出の大部分が機械機器という構造も変わらない。1000cc 超 1500cc 以下の大衆車クラスの乗用車が好調で前年 4 位だったトルコは、機械機器と輸送機器が減少に転じ、6 位に後退した。輸入では、1 位サウジアラビア、2 位 UAE、3 位カタール、4 位イラン、5 位クウェートと資源国が並んだが、最大輸入品目である鉱物性燃料(構成比 98.1%)の大幅な減少(前年比 44.5%減)が、輸入減につながった。2010 年第 1 四半期以降は、金額ベースで、輸出入ともに前年同期比でプラスに転じており、低調だった 2009 年から回復の兆しをみせている。

日本の 2009 年の対外直接投資(財務省。国際収支ベース、ネット、フロー)統計によると、対中東・北アフリカ投資は 7 億 3,000 万ドルだった。国別では、1 位のサウジアラビアが過半にあたる 3 億 9,700 万ドルを占めた。投資分野をみると、製造業では、投資額の約 75%を占め、最大となった化学・医薬のほか、木材・パルプ、鉄・非鉄・金属、非製造業では金融・保険業などへの投資が目立った。次いで UAE が 1 億 9,400 万ドルで続いた。投資分野をみると、大部分を占める建設のほか、小規模ながら化学・医薬品へ投資があった。2008 年に伸びを見せた卸・小売りでは、全四半期で引き上げ超過だった。3 位のトルコは、1 億 300 万ドルで、輸送機械器具が構成比 73%の最大の投資分野だった。そのほか、卸・小売り、運輸、化学、医療、ゴム皮革などが続いた。

中東・北アフリカ地域は、人口増加が続き、2020 年には 5 億人を超えると予想されており、また、若年層人口の割合が高く、今後市場としての魅力が一層高まってくる。韓

国や中国などのアジア勢と競合するためには、富裕層を狙ったハイスペックの商品だけではなく、現地のニーズに適合した仕様の商品を手頃な価格で投入することが不可欠だ。

一方、産油国を中心に、インフラ関連プロジェクトが多数あり、計画されているものも含めると、その額は湾岸協力会議(GCC)諸国だけでも莫大な金額となる。また、産業の多角化、市場の自由化の進展により、製造、小売、サービス業など新たなビジネス機会が生まれている。さらに、日本経済の成長の鍵を握る、鉄道、水、IT、環境、省エネなどの分野にかかわるインフラビジネスなどを、官民一体で売り込んでいく政策的な動きもある。

2009 年 12 月に、日本で開催された「第 1 回日本アラブ経済フォーラム」では、「双方向貿易投資の増加」が議長総括で取り上げられており、アラブ世界との貿易投資関係の拡大に資する取り組みが、今後益々期待される。「第 2 回日本アラブ経済フォーラム」は、2010 年の冬に、チュニジアで開催される予定だ。

## サブサハラ(サハラ砂漠以南)・アフリカ地域概観

### ■石油輸出国や中所得国の経済は不振

IMF の推計によれば、2009 年のサブサハラ・アフリカ(以下、サブサハラ)の実質 GDP 成長率は 2.1%に低下した。2004~2008 年は年平均 6.5%成長を達成していたが、世界金融危機の影響を受け、サブサハラの GDP の 3 分の 1 を占める南アフリカ共和国(以下、南アフリカ)およびアンゴラなどの産油国がマイナス成長となったことが要因である。農業部門が好調であったナイジェリアを除く石油輸出国の実質 GDP 成長率は 2007 年の 12.5%、2008 年の 8.5%から 2009 年には 1.0%に低下した。油田開発が進み、10 年間で原油生産量が倍増したアンゴラでは、2004~2008 年の年平均成長率は 16.8%に達していたが、2009 年の原油生産量は前年比 5.1%減となり、原油輸出量の減少とともに、価格は前年比 36.6%減となった。この結果、経常収支は 64 億 800 万ドルの黒字から 37 億 300 万ドルの赤字に転じ、実質 GDP 成長率はマイナス 0.4%となったとみられている。

金融危機の影響は産油国以外の鉱業国にもおよんでいる。世界最大のダイヤモンド鉱山会社であるデビアスのボツワナ、ナミビア、南アフリカでの生産量は、それぞれ 45%減、56%減、60%減となった。ボツワナではダイヤモンド産業は GDP の約 3 分の 1、ナミビアでは、約 8%を占めているが、ボツワナの実質 GDP 成長率は 2008 年の 3.1%から 09 年にはマイナス 6.0%に、ナミビアでも 3.3%からマイナス 0.7%となった。

輸出比率が高い産油国やボツワナ、ナミビア、南アフリ

カなど中所得国は、金融危機の影響を先進国向け輸出の減少といった形で受け、実質 GDP 成長率は 2008 年の 3.6% からマイナス 1.8% となった。一方で、世界経済に組み込まれていない低所得国の実質 GDP 成長率は 2008 年の 6.9% から 09 年の 4.9% に低下したものの、世界的な経済危機の影響は比較的小さかった。

## ■ 2009 年の貿易は対先進国で大幅に減少

IMF によれば、2009 年のサブサハラ諸国の輸出額(域内を含む)は、前年比 34.2% 減の 2,916 億 2,600 万ドル、輸入は 17.5% 減の 2,708 億 7,690 万ドルであった。先進国への貿易は、輸出で 39.6% 減、輸入は 20.0% 減、新興国・開発途上国は、輸出 23.6% 減、輸入は 15.9% 減となった。新興国・開発途上国との貿易比率は年々増加しており、2000 年の 28.1% から 2009 年には 43.9% まで上昇している。一方の先進国は 66.4% から 53.5% まで低下、特に輸入については 45.5% まで低下している。貿易収支では、先進国に対して黒字を計上する一方で、新興国・開発途上国に対しては赤字を計上している。

国連(2009 International Trade Statistics Yearbook)によれば、2009 年のサブサハラの輸出の 54.0% が鉱物性燃料で、11.8% が工業製品(含む貴石・貴金属、卑金属製品)、11.0% が非食品原料・動植物性油脂、9.2% が食料品・飲料等となっており、鉱物性燃料が、国際価格の影響により前年比 27.0% 減、工業製品は、輸出の 6 割を占める南アフリカからの輸出が 34.9% 減となり、サブサハラ全体でも 27.2% 減となった。先進国向け輸出の比率は、鉱物性燃料で 57.6%、工業製品 55.9% に達しているが、非食品原料等では、先進国向けが 9.7% 減となり、先進国の比率は 37.4% まで低下、東アジア向け輸出は 40.4% 増となり、東アジア(先進国を除く)の比率は 34.0% に達している。食料品・飲料では、日本向け輸出が減少したものの、約 5 割を占める欧州向けの輸出が 8.9% と好調、その他の地域も増加し、11.8% 増となった。

サブサハラの貿易を主要相手国側の統計から見る。EU の 2009 年のサブサハラからの輸入額は 33.3% 減の 674 億 2,706 万ドルとなった。国別では、南アフリカからの輸入が最も多く、206 億 3,104 万ドル、次いでナイジェリア 146 億 3,987 万ドル、アンゴラ 68 億 5,100 万ドルで、これら 3 カ国で対サブサハラ輸入の約 7 割を占めている。品目別では、原油(輸入全体の 33.3%)、石油・その他ガス(4.3%)、石炭(4.1%)などの鉱物性燃料が全体の 42.3% を占め、次いで、ココア・同調製品などの調整食料品・飲料等(12.3%)、ダイヤモンド(6.0%)、金(1.8%)、白金族類金属(1.5%)などの貴石・貴金属等(10.4%)、卑金属・同製品(4.9%)が続いている。原油の輸入が大幅に減少したため(前年比 41.1% 減)、ナイジェリア(36.6% 減)、アンゴラ(40.3% 減)、カメルーン(32.0% 減)、赤道ギニア(65.3% 減)などの産油国からの輸入が大幅

に減少し、南アフリカからの輸入は、石炭や貴石・貴金属等の輸入が減少したため、36.8% 減となった。輸出は、前年比 17.8% 減の 723 億 9,891 万ドルであった。30.3% を占める南アフリカ向けが最も多く、次いでナイジェリア(17.6%)、アンゴラ(9.9%)、セネガル(3.1%)となった。品目別で見ると、輸出の 3 割を占める一般機械・電気機器が、南アフリカ向け輸出の大幅な減少により 19.3% 減、輸送機器(構成比 12.9%)でも、南アフリカ向けの減少により 23.0% 減となった。また、石油製品を中心とする鉱物性生産品(11.7%)は、石油価格の下落によるナイジェリア向けの石油製品輸出の減少などにより、20.4% 減となった。

米国の 2009 年のサブサハラからの輸入額は、前年比 45.5% 減の 469 億 65 万ドルとなった。輸入の約 8 割を占める原油輸入が 47.3% 減となり、輸入の約 4 割を占めるナイジェリア(49.8% 減)、約 2 割のアンゴラ(50.6% 減)、コンゴ共和国(38.8% 減)、赤道ギニア(26.1% 減)などからの輸入が大幅に減少、プラチナやダイヤモンドの輸入減少により南アフリカからの輸入も 40.9% 減と軒並み減少している。輸出は、18.0% 減の 151 億 5,507 万ドルで、輸出の 4 分の 1 を占める輸送機器が、南アフリカ向け自動車輸出が大幅に減少したため、29.0% 減、一般機械でも南アフリカ、アンゴラ向け輸出が減少し 11.7% 減となった。国別では、3 割強を占め、域内最大の輸出相手国である南アフリカが 31.4% 減、4 分の 1 を占めるナイジェリア 10.1% 減、アンゴラ 29.5% 減となった。

米国に次ぐ、輸出相手国である中国のサブサハラからの輸入額は前年比 28.3% 減の 369 億 4,446 万ドルとなった。輸入の 63.0% が鉱物性燃料、16.3% が鉱石等で、鉱物性生産品が全体の 8 割を占め、残りも銅などの卑金属(9.0%)、貴石・貴金属等(4.9%)などでほとんどが鉱物資源関連の輸入である。鉱物性燃料では、原油の輸入量は 7.2% 増となったものの、価格下落により 35.2% 減に、鉱石は 16.2% 減となった。国別では、アンゴラからの輸入が最も多く、39.7% を占め、次いで南アフリカ(21.0%)、スーダン(12.6%)、コンゴ共和国(4.7%)となった。これらの国からの輸入は大幅に減少する一方で、ザンビア(3.4%)については、銅・同製品の輸入増加により、128.9% 増となった。輸出は、前年比 8.4% 減の 335 億 187 万ドル。国別では、サブサハラ向け輸出額の 22.0% を占め、域内最大の輸出相手国である南アフリカ向けが 14.3% 減となり、2 位のナイジェリア(構成比 16.3%、前年比 19.0% 減)やアンゴラ(7.1%、18.6% 減)、ベナン(5.8%、15.2% 減)と軒並み減少した。品目別では、全体の 29.4% を占める一般機械・電気機器が 14.6% 減、繊維・同製品(17.9%、7.3% 減)、卑金属・同製品(12.1%、19.5% 減)となった。

フランスを抜き、米中に次ぐ、サブサハラの輸出相手国となったインドの輸入額は 18.9% 減の 170 億 9,336 万ドルとなった。主な輸入品は、原油や金などであるが、全体

の6割を占める原油輸入量が29.7%増となったものの、価格低下に伴って金額ベースでは18.2%減となり、ナイジェリア、アンゴラなどからの輸入が大幅に減少した。南アフリカから輸入されている金については、輸入量が減少したものの価格上昇に伴い、金額ベースではほぼ横ばいであった。輸出は、21.6%減の101億2,818万ドルで、国別では、南アフリカが最も多く、サブサハラ向け輸出の18.4%を占め、次いでナイジェリア(13.8%)、ケニア(13.3%)、タンザニア(8.8%)、アンゴラ(5.7%)と続いている。南アフリカ向け輸出は、石油製品が大幅に減少したため、26.2%減に、ナイジェリア向け輸出では電気機器、輸送機器などが増加する一方で、一般機械が大幅に減少したため、7.2%減に、ケニア、タンザニアでも石油製品の減少により、それぞれ16.9%減、17.5%減となった。アンゴラは逆に石油製品の増加により67.9%増となった。

韓国のサブサハラからの2009年の輸入額は前年比23.2%減の32億554万ドル、輸出額は、前年比8.8%減の86億8,798万ドル。輸入の半分が鉱物性燃料で、フェロクロムや銅などの卑金属・同製品なども輸入されている。国別では、3割強を占める南アフリカが域内最大の輸入相手国で、これに赤道ギニア、ザンビアが続いている。輸出では、リベリア向け輸出が最も多く、全体の56.2%を占め、南アフリカ(12.5%)、ナイジェリア(9.4%)、アンゴラ(3.7%)が続いている。品目別に見ると、輸出の約6割を占める船舶等の輸出は、ナイジェリア向け輸出が大幅に減少したものの、リベリア向け輸出が74.4%増となった結果、ほぼ横ばいの50億3,298万ドルとなった。船舶等に次ぐ輸出品目である自動車・同部品等は、乗用車が大幅に増加した南アフリカ向け輸出が6.6%増と好調であったものの、ナイジェリア(50.2%減)、アンゴラ(4.5%減)向け輸出が減少した結果、全体では11.7%減となった。

### ■ 対内直接投資は減少したものの、依然として高水準

UNCTADによれば、2009年のサブサハラの対内直接投資額(フロー)は、前年比14.5%減の433億1,300万ドルであった。国別ではアンゴラが最も多く、131億100万ドル(前年比21.0%減)、ナイジェリア58億5,100万ドル(14.1%減)、南アフリカ56億9,600万ドル(36.8%減)、スーダン30億3,400万ドル(7.0%増)と続き、上位には、南アフリカを除いて産油国が並んでいる。サブサハラの多くの国の対内直接投資が減少する中、増加したのは、スーダンのほか、油田開発が進むガーナ(16億8,500万ドル、38.0%増)、中国が銅鉱山などに積極的な投資を行っているザンビア(9億5,900万ドル、2.2%増)、ブラジル鉱山会社による炭鉱開発が進められているモザンビーク(8億8,100万ドル)などである。ガーナでは2007年にオフショア油田が発見され、その後も新たな油田の発見が相次ぎ、三井物産もガーナ東部沖合の探鉱事業に参画している。

サブサハラの対内直接投資額は2000年の68億1,300万ドルから大幅に増加している。2009年は前年比で減少したものの、依然として2007年の額を上回っている。資源需要の拡大および価格上昇に伴って、欧米からの資源分野への投資が増加するとともに、中国やインド、南アフリカなどの新興国からの投資も増加している。中国の統計によれば、対サブサハラ直接投資残高は2003年の4億9,122万ドルから2008年には70億5,046万ドルに達している。国別では南アフリカが30億4,862万ドルと最も多いが、上位には、ナイジェリア、ザンビア、スーダンなどの資源国が並んでいる。2009年においても、中国による投資は活発で、報道によれば、鉱山企業CNMCによるザンビア鉱山の買収、石油会社CNOOCとシノペックによるアンゴラの油田権益獲得やザンビアでの銅精錬所の拡張投資などが行われた。また、政府系とみられている投資会社CIF(China International Fund)は、水力発電所、道路、鉄道などのインフラ投資70億ドルの見返りにボーキサイトなどの権益を獲得することでギニア政府と合意している。

### ■ 南アフリカとの貿易が大幅に減少

2009年の日本の対サブサハラ・アフリカ輸出額は67億7,777万ドル、輸入額は82億4,239万ドルであった。

日本の対サブサハラ貿易において南アフリカの比率は極めて高く、輸入の6割、輸出の4割を占め、サブサハラにおける最大の貿易相手国である。南アフリカに次いで輸出が多いのは便宜置籍船国リベリア(21.8%)、ナイジェリア(8.3%)、ケニア(7.9%)となっている。品目別では、自動車・同部品が38.2%、船舶等(21.7%)と輸送機器が6割を占め、次いで一般機械(14.1%)、電気機器(4.7%)が続いている。南アフリカを中心とする自動車・同部品(40.8%減)、一般機械(43.8%減)の輸出が大幅に減少し、船舶等の輸出が22.8%増となったが、全体では28.4%減となった。

輸入では、原油などの鉱物性燃料(29.5%)や鉱石(9.6%)などの鉱物性生産品が39.3%を占め、次いでプラチナを中心とする貴石・貴金属等(30.2%)、フェロクロムを中心とする卑金属・同製品(10.4%)となった。価格の大幅な下落や輸入量の減少などにより鉱物生産品は63.8%減、貴石・貴金属等は12.2%減、卑金属・同製品は6.0%減と軒並み減少した。国別では、プラチナや鉱石などの輸入の減少により、南アフリカが44.5%減、南アフリカに次ぐ輸入相手国であるスーダンは、発電用生焚き原油の輸入が大幅に減少し、74.5%減、赤道ギニアは、天然ガス価格の下落により30.6%減となった。

2009年の直接投資では、小規模な投資があったものの、モーリシャスからの撤退があったため、北アフリカを含むアフリカへの対外直接投資額は、258億円のマイナス(撤退)となっており、同年末時点の直接投資残高は5,283億円となった。